

前回のアマ無線局調査は1953年から2008年の56年でした。

今回は、2015年までの62年間の推移です

1966年に開局した頃は、53千局で、アマ無線を運用する人はまだ、珍しい存在でした。

仕事に家庭に忙しくなって、QRT状態に入った、1978年から再開局する1990年の12

年間で、400千局から1100千局で約3倍になっていました。

再開局した時に7K1〇×△のコールサインには、浦島太郎状態でした。

更に、世界最多局数となった、1994年の1364千局に向かい増加していきました。

しかし、このピークを越えた年から、2012年までは、アマ無線局の減少傾向が続きます。

その後436千局を前後しながら、1996年から毎年の減少傾向は止まったようです。

2015年現在の436千局は1980年代とほぼ同数であり、私がほぼQRT状態の時で細々と

50mhzのAMでのQSOを行っていた時代と同じです。

ログを見るとAMでEスポQSOを含めて、1年で20局程度の低アクティビティの状況でした。

1983年に50mhzのSSB運用が可能となり、AM局よりSSB局が多くなっている事を実感

しました。また遠距離通信が安定して出来る事を実感していました。

1エリアでのコールは、JN1、JM1が割り当てられて、局数が毎年増加していた時代です。

50. 240グループが、第一回のミーティングを行ったのもこのころ頃ですね。

モバイル運用を含めた移動運用が盛んになり、モバイル機やハンディー機が小型化、

多機能化していった時代であり、これが、後の携帯電話の実装技術に反映していると思

います。

1985年から2005年までの20年間の大きな山は、VHF/UHFでの連絡用無線局であり、

無線通信実験を楽しむ局ではない様に思います

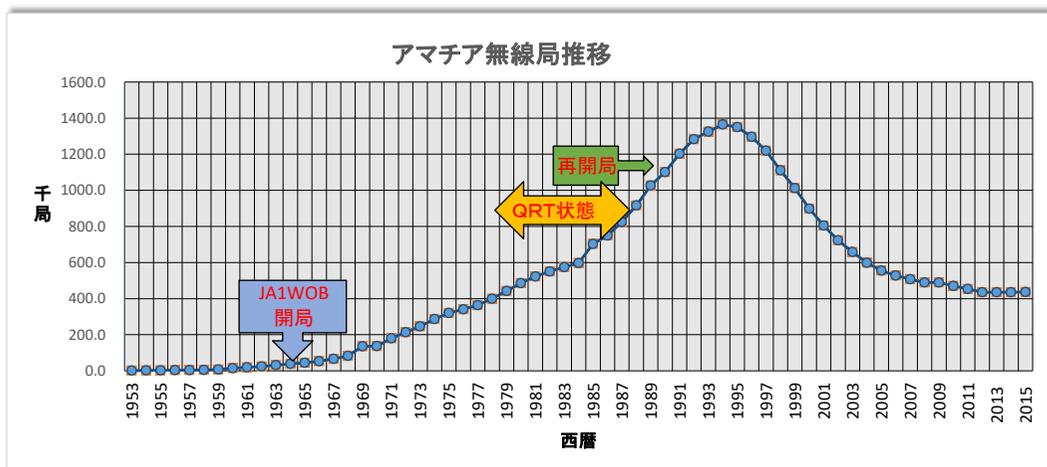
それは、携帯電話の普及とともに、アマ無線局が減少していった事が証明しています。

今後は、400千局位を保ちながら、推移していくのではないかと私は思います。

アマチュア無線局推移1953年-2015年

単位千局

年度	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962
局数	0.9	2.1	3.2	3.6	4.3	5.6	7.4	14.5	19.4	24.1
年度	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972
局数	31.0	38.4	45.0	53.3	66.4	83.2	135.9	136.9	180.3	213.3
年度	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982
局数	246.5	286.2	320.3	341.0	364.1	399.9	442.1	485.5	523.0	550.3
年度	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
局数	574.9	597.0	703.2	749.4	825.2	916.9	1027.1	1101.4	1203.2	1283.2
年度	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
局数	1325.5	1364.3	1350.1	1296.1	1220.0	1111.0	1012.0	898.0	805.0	723.0
年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
局数	659.0	599.0	555.0	528.0	508.0	489.0	489.2	470.8	453.2	435.6
年度	2013	2014	2015							
局数	436.1	435.5	436.3							



アマチュア無線従事者免許取得者の資格比率も計算してみました。
 1994年から2005年までは、4アマが92%代でしたが、2006年に91%代となり、2009年からは、90%代になりました。
 3アマは1994年から2005年までは、4%代でしたが、2006年に5%代たなって2010年に6%代と増加傾向にあります。
 2アマは、1987年から2%代で変化は有りません。
 1アマは、1985年から2011年までは1%未満でしたが、2012年以降は1%代となって、いますこれは、CWの受信試験が廃止されて、上級資格が取りやすくなった為だと思います。
 いづれにしても、1958年に9,790人だった、従事者免許取得者が2015年で、3,424,971人の350倍は驚きです。また5年後の2020年にはどうなっているでしょうか。

アマチュア無線従事者免許取得者の推移

西暦	年度	第一級	第二級	第三級	第四級	アマ計	第一級	第二級	第三級	第四級
1958	S-33	1,486			8,304	9,790	15.2%	0.0%	0.0%	84.8%
1959	S-34	1,546	1,750	645	16,136	20,077	9.6%	8.7%	3.2%	80.4%
1960	S-35	1,615	2,438	1,361	24,701	30,115	6.5%	8.1%	4.5%	82.0%
1961	S-36	1,685	2,948	2,107	29,638	36,378	5.7%	8.1%	5.8%	81.5%
1962	S-37	1,714	3,434	2,837	37,156	45,141	4.6%	7.6%	6.3%	82.3%
1963	S-38	1,772	4,412	3,743	46,657	56,584	3.8%	7.8%	6.6%	82.5%
1964	S-39	1,859	5,036	4,826	58,758	70,479	3.2%	7.1%	6.8%	83.4%
1965	S-40	1,963	5,691	6,467	68,720	82,841	2.9%	6.9%	7.8%	83.0%
1966	S-41	2,077	6,861	8,341	86,334	103,613	2.4%	6.6%	8.1%	83.3%
1967	S-42	2,246	7,743	10,434	109,036	129,459	2.1%	6.0%	8.1%	84.2%
1968	S-43	2,447	8,932	12,864	138,986	163,229	1.8%	5.5%	7.9%	85.1%
1969	S-44	2,672	10,500	15,823	176,267	205,262	1.5%	5.1%	7.7%	85.9%
1970	S-45	2,905	11,679	20,035	222,036	256,655	1.3%	4.6%	7.8%	86.5%
1971	S-46	3,134	13,335	24,620	374,181	415,270	0.8%	3.2%	5.9%	90.1%
1972	S-47	3,580	15,214	28,218	322,483	369,495	1.1%	4.1%	7.6%	87.3%
1973	S-48	3,999	17,196	32,364	376,364	429,923	1.1%	4.0%	7.5%	87.5%
1974	S-49	4,763	20,112	36,837	437,596	499,308	1.1%	4.0%	7.4%	87.6%
1975	S-50	5,356	22,279	42,144	494,336	564,115	1.1%	3.9%	7.5%	87.6%
1976	S-51	5,956	25,168	45,027	546,677	622,828	1.1%	4.0%	7.2%	87.8%
1977	S-52	5,755	27,672	48,673	603,201	685,301	1.0%	4.0%	7.1%	88.0%
1978	S-53	7,334	30,216	51,761	655,555	744,866	1.1%	4.1%	6.9%	88.0%
1979	S-54	7,902	32,935	55,106	725,847	821,790	1.1%	4.0%	6.7%	88.3%
1980	S-55	8,596	35,308	58,512	802,960	905,376	1.1%	3.9%	6.5%	88.7%
1981	S-56	9,267	37,840	61,984	891,688	1,000,779	1.0%	3.8%	6.2%	89.1%
1982	S-57	9,824	39,835	65,285	974,646	1,089,590	1.0%	3.7%	6.0%	89.5%
1983	S-58	10,430	41,559	67,753	1,057,163	1,176,905	1.0%	3.5%	5.8%	89.8%
1984	S-59	11,036	43,425	70,372	1,145,331	1,270,164	1.0%	3.4%	5.5%	90.2%
1985	S-60	11,548	45,108	78,934	1,232,493	1,368,083	0.9%	3.3%	5.8%	90.1%
1986	S-61	12,070	46,749	84,399	1,327,895	1,471,113	0.9%	3.2%	5.7%	90.3%
1987	S-62	12,615	47,224	89,313	1,457,976	1,607,128	0.9%	2.9%	5.6%	90.7%
1988	S-63	13,159	49,803	94,288	1,601,668	1,758,918	0.8%	2.8%	5.4%	91.1%
1989	H-01	13,581	51,775	98,895	1,760,072	1,924,323	0.8%	2.7%	5.1%	91.5%
1990	H-02	13,989	54,555	113,590	1,889,249	2,071,383	0.7%	2.6%	5.5%	91.2%
1991	H-03	14,703	57,530	117,952	2,090,520	2,280,705	0.7%	2.5%	5.2%	91.7%
1992	H-04	15,160	60,416	123,040	2,253,482	2,452,098	0.7%	2.5%	5.0%	91.9%
1993	H-05	15,771	63,101	128,164	2,407,670	2,614,706	0.7%	2.4%	4.9%	92.1%
1994	H-06	16,382	66,025	132,580	2,550,918	2,765,905	0.6%	2.4%	4.8%	92.2%
1995	H-07	16,867	68,187	136,338	2,659,041	2,880,433	0.6%	2.4%	4.7%	92.3%
1996	H-08	18,735	69,598	140,043	2,733,351	2,961,727	0.7%	2.3%	4.7%	92.3%
1997	H-09	20,241	70,819	142,407	2,779,292	3,012,759	0.7%	2.4%	4.7%	92.3%
1998	H-10	20,995	79,517	144,113	2,812,711	3,057,336	0.7%	2.6%	4.7%	92.0%
1999	H-11	21,644	72,061	145,567	2,842,877	3,082,149	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2000	H-12	22,115	72,383	146,455	2,863,163	3,104,116	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2001	H-13	22,353	72,621	147,169	2,879,314	3,121,457	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2002	H-14	22,594	72,854	147,923	2,894,522	3,137,893	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2003	H-15	22,817	73,088	148,722	2,909,162	3,153,789	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2004	H-16	23,050	73,281	149,404	2,924,065	3,169,800	0.8%	2.3%	4.7%	92.2%
2005	H-17	23,697	73,705	156,415	2,938,927	3,192,744	0.8%	2.3%	4.9%	92.1%
2006	H-18	24,685	74,147	169,149	2,956,732	3,224,713	0.8%	2.3%	5.2%	91.7%
2007	H-19	25,427	74,462	180,033	2,974,569	3,254,491	0.9%	2.3%	5.5%	91.4%
2008	H-20	26,065	74,846	188,545	2,989,532	3,278,988	0.9%	2.3%	5.8%	91.2%
2009	H-21	26,683	75,229	195,122	3,002,921	3,299,955	0.9%	2.3%	5.9%	91.0%
2010	H-22	27,406	75,573	201,390	3,014,774	3,319,143	0.9%	2.3%	6.1%	90.8%
2011	H-23	28,127	76,121	208,295	3,026,914	3,339,457	0.9%	2.3%	6.2%	90.6%
2012	H-24	29,138	76,872	214,552	3,039,958	3,360,520	1.0%	2.3%	6.4%	90.5%
2013	H-25	30,041	77,536	220,624	3,054,147	3,382,348	1.0%	2.3%	6.5%	90.3%
2014	H-26	30,837	77,973	226,666	3,067,592	3,403,068	1.0%	2.3%	6.7%	90.1%
2015	H-27	31,544	78,818	232,686	3,081,923	3,424,971	1.0%	2.3%	6.8%	90.0%